

# 令和5年定例9月会議一般質問

質問者	質問事項及び要旨	質問の相手
森岡正雄	<p><b>診療所の人工透析導入について</b></p> <p>現在、本町には4名の人工透析患者がいるが、2日に一度佐世保の病院に通院しなくてはならず、医療費、交通費、宿泊費の補助はあるものの、心身の負担は相当なものである。また時化や台風による欠航で不測の滞在を強いられることがあり、非常に大変な思いをされている。</p> <p>透析には様々な副作用があり、その一つに血圧の極端な変動による意識の喪失がある。今年2月には佐世保鯨瀬ターミナルにおいて、突然意識喪失した透析患者が頭部を強打し、懸命の治療も虚しく亡くなるという大変痛ましい事故があった。</p> <p>今は健康に暮らす町民も、いつ透析治療が必要になるか分からないのであるし、現在の患者の救済は当然ながら、これからの患者救済の為に本町で透析治療を受けられるようにし、健全な町民とできるだけ近い生活をして頂きたいと考え、以下の4点を質問する。</p> <p>①診療所に人工透析を導入するとどういった問題があるか。            ②医療機器の費用や人件費はどの程度かかるか。            ③導入による診療所の利益はどの程度の見込みがあるか。            ④現在滞在費は4分の3補助（上限6,000円）となっているが、ホテル料金は年々増額の一途を辿っている。補助の増額の考えはないか。</p>	町長
江川春朝	<p><b>最終処分場及びゴミ焼却炉について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西目最終処分場に山積みの家屋廃材の島外搬出6千万円は、今後も毎年か？</li> <li>・ゴミ焼却炉を新設しない理由を、町民が納得していないので、新設と、新上五島への搬出のコスト等説明を。</li> </ul>	町長
	<p><b>6月定例会における一般質問について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この4か月間の、町としてのジェンダーギャップ（男女間格差）への取り組みは？</li> <li>・この4か月間の、フェリー、高速船の運賃低廉化への取り組みは？</li> </ul>	町長
	<p><b>小値賀町役場の職員数について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小値賀町役場から、人手不足という言葉をよく聞くが、現在、人手不足か？</li> <li>・正職員と会計年度任用職員の合計数は、どれくらいが適正だと考えているか？</li> </ul>	町長

<p>今田光弘</p>	<p><b>医師住宅の新築について</b></p> <p>①新しい診療所が整備されるなかで、医師住宅を2棟建てる事業が令和4年度に計画されていた(事業費約8000万円)が、繰り越さずに年度末に全額を減額補正した。建設資材の高騰によりこの予算での建設は難しいという理由からだが、予算の範囲内で工夫して建築すべきではなかったのか。</p> <p>②新たに今年度出された事業費は、床面積を減らしているにも関わらず、前年度事業費より3200万円多い約1億1200万円。1棟当たり5600万円で坪単価(27.22坪)にすると205万7千円。土地代は含めずに木造でこの金額はあり得ない。予算特別委員会でも指摘したが高すぎないか。</p> <p>③現在常勤の栗原医師のほか、例えば週に3日間応援に来ていただいている江崎医師、あるいは今まで来ていただいていた田中慶太医師や大住元秀明医師に、どうしたら小値賀に医師を呼べるか、新築の住宅が絶対条件なのか相談はしたのか。</p> <p>④人口減少の中で常勤医師の確保は本当に大事なこと(医師以外の医療従事者も同じ)で、住宅の確保は絶対条件。しかし新築住宅が絶対なのか。必要なのは快適に暮らせる住居を提供することではないか。同じお金をかけるなら、町内に散見される空き家をリフォームした方が重要文化的景観区域を擁する本町の方向性にも合っているのでは。</p> <p>⑤新診療所の2階に4つの宿泊室ができ、研修医や代診医が利用している。一方で旧診療所横の医師住宅は古いながらも健在のようだ。ここをリフォームして再利用するのもひとつの方法だと思うが。</p>	<p>町長</p>
<p>横山弘藏</p>	<p><b>空き家対策について</b></p> <p>①空き家がもたらす、周囲への悪影響をいかに最小限にとどめるかは、喫緊の課題と思われる。景観や衛生、防災面でも地域に深刻な影響を及ぼす空き家の問題をどのように考えているか町長の見解を伺う。</p> <p>②国も空き家対策に苦慮している。1998年には182万戸、2030年には470万戸と見込まれている。除去等の促進はもちろん悪影響を及ぼす前の有効活用など適切な管理を総合的に強化する方針である。当町もあらゆる条例、規則、要綱をしっかりと活かして取り組むべきと思うが、現在の当町の空き家対策はどのような状況なのか。</p> <p>③所有者の悩み資金面など問題を抱えているある自治体では、所有者の悩みに寄り添う空き家対策に取り組んでいる。所有者への訪問面談等を行い、直接悩みを聞き出しアドバイスするなど、管理を助言指導す</p>	<p>町長</p>

	<p>るより、所有者と一緒に考えることを大切にして効果を上げている。当町もあらゆる事例を参考にして今後も増え続ける空き家問題を一つ一つ解決するべきではないか。</p>	
立石光助	<p><b>避難所の在り方について</b></p> <p>スーパー台風が毎年襲来する未来に備えるため、防災減災対策が非常に重要である。特に、避難所は台風襲来時に身の安全を確保し、仮に自宅が被災し住むことができる状態でなくなった場合の、復旧までの仮住まいとして重要な拠点となる。</p> <p>住民目線で安全・安心・快適・利便性の良い避難所の在り方を考えると、公民館単位で避難所があった方がいい。実際、住民の方から「公民館が避難所だったら良いのに」といった声もうかがっている。</p> <p>「小値賀町国土強靱化地域計画」にも「地区住民センター等地域毎に身近に避難できる避難所の整備を進める」「避難所が地域の防災拠点としての役割を果たせるよう地区住民センター等の開口部の暴風対策工事等防災力強化のための改修を実施する」と記載されている。</p> <p>総合体育館の耐震補強のために大規模な予算を投じるより、計画にも記載されている通り、地区住民センター等の防災力強化に予算を充てるべきではないか。また、本来防災力が強い拠点であるべき消防団詰所が老朽化してしまっているため、詰所の改修や更新の工事が今後必要となってくるが、詰所に避難所としての機能も持たせることができれば、消防団との連携により避難所の運営がスムーズに行えるようになると思うが、本件に対して町長の考えを伺う。</p>	町長